

新給食センター計画は再考すべき

市長／考えたい。



隈部 和久 議員

議員 前回の答弁で、新センターを吹き抜け構造にするのは、食育の為に必要であるとの事だったが、教委が考える食育の概念とは。

教育長 安全、安心を基本としてその上で、作食の現場を見る事で、作る人の心を受け止めて食し、感謝の心を育む。また、見学後は残食が減ったという報告もある。

議員 それは同感だが、各学校から、龍石まで連れて来て見学させる頻度が、卒業までの間に何回あるのか。作食の工程を映像に納め、ナレーションやBGMで、生徒に解

かり易く、感銘を受ける様な物を観せた方が効果があるのではないかと。

空調機の機能が十分であり、国の基準もクリアしているとは説明されても、一番の経験や知見がある現場の懸念が払拭できない事が問題である。さらに、このセンター建設の必要性の大きな理由として、アレルギー対策があるが、対応策が不十分である。また、納入業者への説明会も、生煮えのまま開催し、不安や不満の声が上がっている。配送計画も、学校との協議不足を指摘されている。本当にこのまま進めていくのか。

市長 これまで、そのような不安、不満、懸念の声に対し協議を重ねて今日に至ったと思っている。

が、他の議員からも種々指摘され、この状況に対し何にすべきか考えている。

議員 何より、当初の見積りから倍近くまで膨らんだ建設費に対し、陳謝しながらも、様々な言い訳や、無理な理由付けをして、結局推進している。私は、将来を考えると、6センターをいきなり1つに統合する事は再考すべきだが、新センター自体の建設は必要であると考える。しかし、現計画は、あまりにも杜撰で稚拙で、そして拙速であり、民間はおろか、他自治体でも考えられない程の悪い案件である。合併特例債の再延長とも合わせ、絶対に見直すべきである。

市長 考えることにする。



給食センターの作食風景

新元号変更に伴う行政文書等の表記方法はどのように検討しているのか

市長／これまでと同様に和暦での表記が基本であると考えている。



柴田 恭成 議員

平成31年度の予算編成方針と予算編成について

議員 予算編成方針は、予算編成に当たっての基本的な考え方や、編成上の留意事項を示したもので、住民が今何を要望しているかを把握することにより、施策を決定し健全財政を貫くことや、地域経済の見通しや、国の経済動向についても、十分な考慮をはらう事が重要で、各局からの予算要求書の提出は、この予算編成方針に基づいて要求されると思うが、来年度の予算編成方針につい

ての基本的な考え方を伺う。

市長 29年度以降、普通交付税合併算定替の縮減率が拡大されていることから、歳入歳出全般にわたり、更なる見直しを行い、総合戦略に沿った人口減少対策、地方創生に対する事業等に南島原市創生特別枠を設定し、重点配分を行い、加えて政策評価の活用、市民の声、現場の声を反映した事業等に積極的に取り組むこととしている。

議員 限られた財源なので、大型事業だけじゃない、市民が求めているもの、例えば、傷んだ既存の市道や農道などの舗装補修や、離合できない狭い道路等での待機場所の確保や、消えかかって解りづらい白線の引き直し、道路の除草など、市民からの要望も多いと思うので、新年度は予算を増額すべきと考えるが如何か。

市長 私自身もそういう思いは持っており、以前と比べて増額をして取り組んできたところであるが、更に対応を図ってい

世界遺産登録後の原城砂利敷設の問題について

議員 今回の砂利敷設問題等の原因と対応策については、どのように考えているのか。

市長 現状変更の手続きに対する認識が甘かったことが原因で、今後は、これまで軽微であると判断していた史跡の保護管理に係わる点についても、十分に確認しながら進めていく。

議員 これからは、文化財課と企画振興部で十分協議をし、進めていくべきで、折角世界遺産に登録されたのに、汚点を残すようなことが無いよう取り組んでいただきたい。その他の質問

・元号改正に伴う取組みについて



消えかかって解りづらい白線